

$\bar{V}$ のゾーン毎の重みベクトル $(V) = (V^a, V^b, V^c)$, $\bar{U}$ の重み $(U) = (U^a, U^b, U^c)$ がわかれば、重力モデルのエントロピー法などを使って、目的別遷移行列 P^a, P^b, P^c などと求めることができる。いま目的別総トリップ数 $(\bar{V}^a, \bar{V}^b, \bar{V}^c)$ は別に推計されるので、 $\bar{V} = (\bar{V}^a, \bar{V}^b, \bar{V}^c)$ とあらわされる。 $(\bar{V}^a, \bar{V}^b, \bar{V}^c) = (\bar{A}^a, \bar{A}^b, \bar{A}^c)(I - Y)^{-1}$ 。ここで $\bar{A}$ はポトリップ生成数である。また $\bar{U} = (\bar{U}^a, \bar{U}^b, \bar{U}^c)$ とあらわされる。

さて(2)式と(1)式を代入すれば、
$$\bar{U} = \bar{A} + \bar{V}^* Y \quad \dots\dots\dots (3)$$

これから $(\bar{U}^a, \bar{U}^b, \bar{U}^c) = (A^a, A^b, A^c) + (\bar{V}^a, \bar{V}^b, \bar{V}^c)^* Y \quad \dots\dots\dots (4)$

そうして、全日においては $\bar{U} = \bar{V}$ となるので、土地利用計画にもとづいて (V) が与えられれば、 (U) を求めることができる。

こうして求めた (U) と所与の (V) , ゾーン間の所要時間 t_{ij} , トリップ長分布の重力係数によってエントロピー法によって計算された(目的別に別々に計算) $\bar{P}$ は、先に仮定した P とどのような関係にあるか。 $\bar{P}$ を P のように並べた行列を $\bar{P}$ とかくと、エントロピー法の性質から

$$\bar{U} \bar{P} = \bar{V}$$

(3)式を代入して $(\bar{A} + \bar{V}^* Y) \bar{P} = \bar{V}$

(1)式を代入して $\{\bar{A} + \bar{A}P(I - Y^*P)^{-1} Y^*\} \bar{P} = \bar{A}P(I - Y^*P)^{-1}$
 $\bar{A}\{I + P(I - Y^*P)^{-1} Y^*\} \bar{P} = \bar{A}P(I - Y^*P)^{-1} \quad \dots\dots\dots (5)$

左辺の $\{ \}$ の中は、 $I + PY^* + PY^*PY^* + \dots\dots\dots = (I - PY^*)^{-1}$ であるから、(5)式に左から $\bar{A}^{-1}$ をかけ

$$(I - PY^*)^{-1} \bar{P} = P(I - Y^*P)^{-1} \quad \dots\dots\dots (6)$$

右辺は $P + PY^*P + PY^*PY^*P + \dots\dots\dots = (I - PY^*)^{-1} P$ ともがけから、(6)式は

$$(I - PY^*)^{-1} \bar{P} = (I - PY^*)^{-1} P \quad \therefore \bar{P} = P$$

5. OD表の作成 (4)式で求めた (U) を使って $\bar{U}$ を作り、その目的別ベクトル $\bar{U}^a, \bar{U}^b, \bar{U}^c$ を次のように並べた行列 $\bar{U} = (\bar{U}^a, \bar{U}^b, \bar{U}^c)$ を作り、 $\bar{U} \bar{P}$ を計算すれば目的別OD表がえられる。

ポトリップ目の目的が何であったかは、ベースに利用できる自家用車があつたかどうかによって、全市全日の自動車利用率に影響をもつ。もしポトリップ目の目的によって更に目的別OD表を作りたるときには、(2)式の $\bar{A}$ を A にして U を計算する。すなわち

$$U = A + A \bar{P}^* (I - Y^* \bar{P}^*)^{-1} Y^* \quad \dots\dots\dots (7)$$

この U は $\begin{pmatrix} \text{---} \\ \text{---} \\ \text{---} \end{pmatrix}$ 3行 のような形をしており、この U を $U = \begin{pmatrix} \text{---} \\ \text{---} \\ \text{---} \end{pmatrix}$ のような形に並べがえて $U \bar{P}$ を計算すればえられる。

6. 帰宅のOD表

ベースへの帰宅のOD確率は、ベースを出てからそれまでに経過してきたOD確率行列の積(順々に)を転置したものであらわされる。いまポトリップ数について

$$(A^a) = \begin{pmatrix} A_1^a \\ A_2^a \\ \vdots \\ A_n^a \end{pmatrix} \quad \text{など} \quad \text{と並べ}$$

$$(A) = \begin{pmatrix} (A^a) \\ (A^b) \\ (A^c) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \text{---} \\ \text{---} \\ \text{---} \end{pmatrix}$$

を定義しておけば、

$$\begin{aligned} \text{ポトリップ目からの帰宅(積)} &= \{(A)^* \bar{P} R\}' \\ \text{ポトリップ目2} &= \{(A)^* \bar{P} Y^* \bar{P} R\}' \\ \text{ポトリップ目} n &= \{(A)^* \bar{P} (Y^* \bar{P})^{n-1} R\}' \\ n \rightarrow \infty \text{としてその合計は} &= \{(A)^* \bar{P} (I - Y^* \bar{P})^{-1} R\}' \quad \dots\dots\dots (8) \end{aligned}$$

となる。これがそのまま帰宅トリップのOD表である。